

## 大阪大学医学部附属病院とアメリカにおける、同胞を亡くした残された兄弟に対する兄弟のグリーフケアの現状の検討

キーワード：兄弟、グリーフケア、家族

分野名：生命育成看護科学

指導教員：遠藤 誠之

学籍番号・氏名：05B17001・石丸舞夏

**【目的】**ある実習の際に、終末期にある子どものドキュメンタリーを見る機会があった。そのビデオにおいて、最期の別れのシーンで、患児の姉が置き去りにされていると感じた。両親・医療スタッフ共に患児に集中しているように思い、その後の残された兄弟へのグリーフケアはどのように行われるのかということに疑問を持った。本研究では同胞を亡くした残された兄弟に対するグリーフケアについて検討することにした。特にそこから、日本において兄弟へのグリーフケアがどのように行われているかを明らかにすることを目的として研究を行った。さらに海外においては兄弟へのグリーフケアがどのように行われているかを明らかにすることを目的として、研究を行った。

**【研究方法】**①海外に関しては、アメリカに焦点を当て、実際にアメリカの小児病院で配られているパンフレット (Sibling Grief) [Scherago, 2003] を用いた。パンフレットを和訳し、具体的にどのようなグリーフケアが行われているのかを抽出し、要約した。②日本に関しては、現状把握のために、「医学中央雑誌」Web版において、(きょうだい/TH or 兄弟/AL) and (グリーフケア/TH or グリーフケア/AL) という条件で検索し、該当する論文を分析の対象とした (2020/12/3 時点)。③さらに、実際に医療現場で行われているグリーフケアを知るために、大阪大学医学部附属病院・産婦人科の胎児を亡くした女性とその家族を対象としたグリーフケアを研究しているグリーフケア研究会に参加している医療スタッフ9名を対象にインタビューを行った。インタビュー方法は、「実際の兄弟に対するグリーフケアに関して医療者が行っていること」という問いを提示し、そこから自由に話し合ってもらおうという形式をとった。インタビュー時間としては1時間程度であった。

**【結果】**①パンフレットの検討から、海外のグリーフケアに関して、両親が感情表現の手本となること、両親が子どもの発達段階に応じた声掛けを行うこと・兄弟の死に対する反応への対処を行うこと、両親は自分自身もきちんといたわること、の3点が重要であることが分かった。②日本のWEBの検討から、日本のグリーフケアに関しては、現状として兄弟へのグリーフケアが必要であること、兄弟へのグリーフケアに関する親の困難感が示唆されており、それらに関しての具体的な対処法が提示されていた。③グリーフケア研究会の方を対象としたインタビューの検討からは、子どもの死に関して、夫婦の間に温度差が生じてしまう、夫婦の温度差がグリーフケアに影響を与える、子どものグリーフケアにおいてなるべく秘密をつくらないことが重要である、子どものグリーフケアに対する医療スタッフの関わりも兄弟へのグリーフケアの手本となり大切である、という4点が分かった。

**【考察】**アメリカと大阪大学医学部附属病院のグリーフケアの実際を研究した結果、アメリカのほうが兄弟のグリーフケアに関しての研究が進んでいることが分かった。さらに、アメリカとの違いとして、日本のグリーフケアでは「夫婦の温度差」を考慮に入れたほうが良いと考えられていることが分かった。また、日本においてもアメリカにおいてもグリーフケアの大切なこととして、「子どもの前で感情を隠さないこと・子どもの発達段階に応じた声掛けをすること」ということが共通しており、グリーフケアを行う際の押さえておいたほうが良い基本事項であると考えた。

**【結論】**大阪大学医学部附属もアメリカも兄弟のグリーフケアに関して大切なことは共通しており、それは、「子どもの前で感情を隠さないこと・子どもの発達段階に応じた声掛けをすること」ということである。

